

McLaren Honda MP4/4

1988 WORLD CHAMPIONSHIP WINNING CAR

6

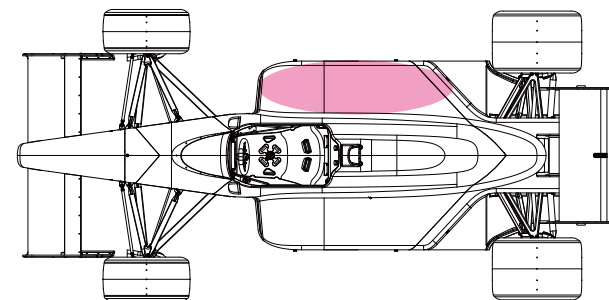
マクラーレン ホンダ
MP4/4

最速の世界を制した伝説のメモリアルマシンを
内部機構まで完全再現！



Mission 19 右のサイドポンツーンを組み立てる ②

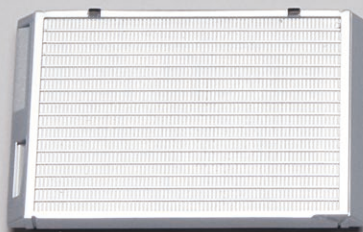
今号は、前号に引き続き右のサイドポンツーンを組み立てる。サイドポンツーンの内部にラジエーター(右・内)とサイドポンツーンシステム(右)を取り付けて、サイドポンツーンの外郭をつくる。次にラジエーター(右・外)にラジエーターホース(右上、右下)を接着し、サイドポンツーンに取り付ける準備をする。



今号のパーツ



① ラジエーター(右・内)



② ラジエーター(右・外)



③ インタークーラー(右上) ダイキャスト製



④ インタークーラー(右下) ダイキャスト製

※①～②はHIPS(スチロール樹脂)製

本モデルのサイドポンツーンは、外側に装着されるパーツ類だけでなく、ラジエーターを保護するネットやサイドポンツーンシステムといったサイドポンツーンの内側に装着されるパーツも再現している。今号で提供するラジエーター(右・外)の上部には、肉眼では読みにくい小さな文字で書かれたプレートまでも再現されている。

◀MP4/4の右サイドポンツーンのラジエーター周辺。

In Focus

今号で使用する道具

- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・カッター
- ・カッティングマット
- ・マスキングテープ

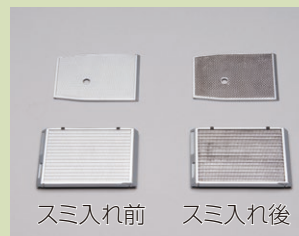
用意するもの

- ・サイドポンツーンシステム(右) ※13号で提供
- ・ラジエーターホース(右上) ※18号で組み立て
- ・ラジエーターホース(右下) ※18号で組み立て
- ・サイドポンツーン(右上) ※18号で組み立て
- ・サイドポンツーン(右下) ※18号で提供

ディテールアップ

ラジエーターのスミ入れ

●ラジエーターのコア部分やラジエーター保護用のネット(網)を再現している格子状の部分は、凹みにスミ入れすることでディテールアップできる。ラジエーター(右・内)のスミ入れは、今号のステップ1の作業後に、ラジエーター(右・外)はステップ7の作業後にそれぞれ行うとよい。



※スミ入れは任意の作業だ。詳しいスミ入れ工程については、9号の組み立てガイドを参考にしよう。



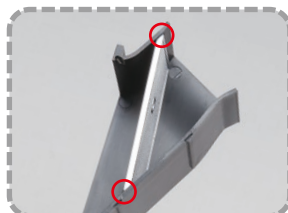
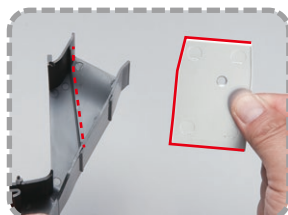
1 サイドポンツーン(右上)とラジエター(右・内)の接着準備

- 18号で組み立てたサイドポンツーン(右上)を用意する。

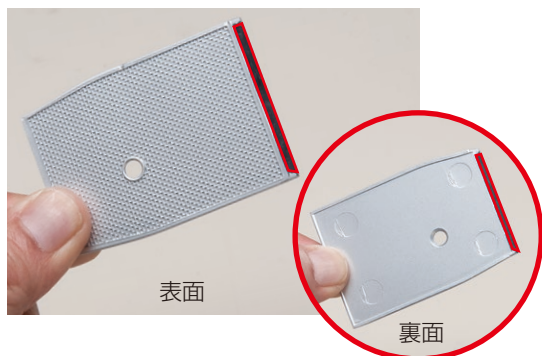


《仮組み》

サイドポンツーン(右上)の赤色の点線で示した部分と、①ラジエター(右・内)の赤線で示した部分を写真のように組み合わせる。赤丸で示した部分の組み合わせ方に注意する。

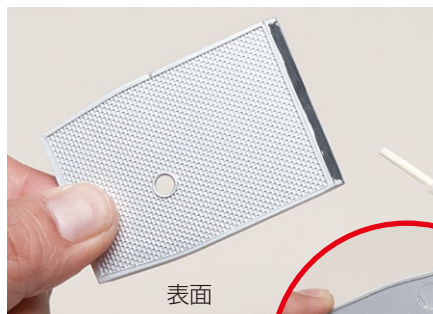


- ラジエター(右・内)の表面(格子状の面)と、裏面の赤線で囲んだ面の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。

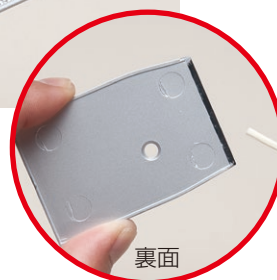


2 サイドポンツーン(右上)とラジエター(右・内)を接着する

- ラジエター(右・内)の塗装をはがした部分にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗る。



- 接着剤のはみ出しに注意する。



- 仮組みしたようにラジエター(右・内)とサイドポンツーン(右上)を組み合わせ、指で2~3分しっかりとおさえる。



- 完全に接着する前に次の作業へ進んでよい。



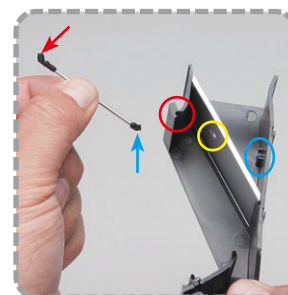
3 サイドポンツーン(右上)とサイドポンツーンシステム(右)の接着準備

- 13号で提供したサイドポンツーンシステム(右)を用意する。

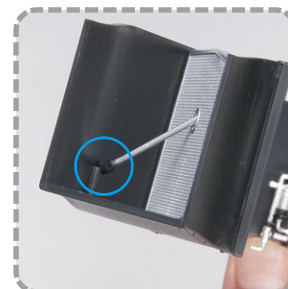


《仮組み》

サイドポンツーンシステム(右)をラジエター(右・内)の黄丸の穴に通して、青矢印で示した先端は青丸の溝に、赤矢印で示した先端は赤丸の溝と組み合わせる。



写真のように、それぞれの先端と溝がしっかりと組み合わせることを確認する。



NEXT STEP >>>

4

サイドポンツーン(右上)と サイドポンツーンシステム(右)を 接着する

●サイドポンツーン(右上)の赤線で囲んだ溝に、接着剤を塗る。仮組みしたようにサイドポンツーンシステム(右)と組み合わせて、指で2~3分おさえる。



■接着面が1箇所なので、しっかりとおさえる。

●サイドポンツーン(右上)にサイドポンツーンシステム(右)が取り付けられた。完全に接着する前に次の作業へ進んでよい。



5

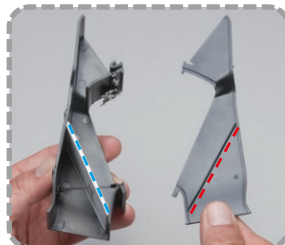
サイドポンツーン(右上)と サイドポンツーン(右下)の接着準備

●18号で提供したサイドポンツーン(右下)を用意する。



《仮組み》

サイドポンツーン(右上)とラジエター(右・内)の形状に合わせて、サイドポンツーン(右下)を組み合わせる。このとき、青色の点線部分は赤色の点線部分と組み合わせる。2つのパーツがしっかりと組み合せて、合わせ目に段差がないことを確認する。最後に、3センチ程度のマスキングテープを4本用意する。



●サイドポンツーン(右下)に用意したマスキングテープを写真のように貼る。



6

サイドポンツーン(右上)と サイドポンツーン(右下)を接着する

●サイドポンツーン(右上)の赤線で示した部分に接着剤を塗る。仮組みしたようにサイドポンツーン(右下)と組み合わせ、指で2~3分おさえる。



■接着面がずれないように、しっかりとおさえる。

●貼ってあるマスキングテープで接着面が密着するように固定する。1時間ほどおき、完全に接着したらマスキングテープをはがす。これでサイドポンツーン(右)ができた。



Check



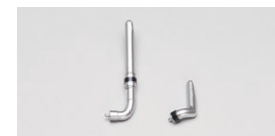
完成時イメージ▲

■サイドポンツーン(右)には後の号でラジエター(右・外)やインタークーラー(右)を取り付ける。

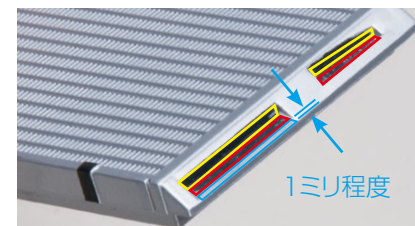
7

ラジエター(右・外)とラジエターホース(右上、右下)の接着準備

●18号で接着部分の塗装をはがしたラジエターホース(右上、右下)を用意する。

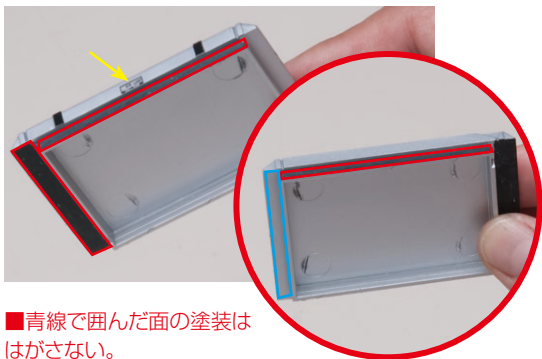


●ラジエター(右・外)の切り欠きの2方向の面の、赤線と黄線で囲んだ部分の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。青線で囲んだ1ミリ幅程度の部分は、パーツ接着後も外側から見えるので、塗装をはがさない。



1ミリ程度

● ラジエーター(右・外)の赤線で囲んだ3面の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。このとき、黄矢印で示したプレート部分は傷つけないよう注意する。

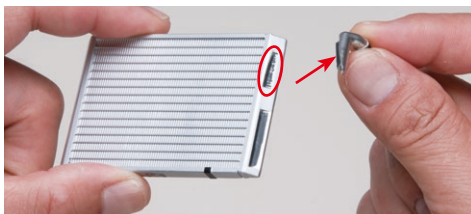


■青線で囲んだ面の塗装はがさない。

8

ラジエーター(右・外)とラジエーターホース(右上、右下)を接着する

● ラジエーター(右・外)の赤丸で示した切り欠きに、ラジエーターホース(右下)の赤矢印で示した突起の形状を合わせて接着していくので確認する。必ずラジエーターホース(右下)を先に接着する。

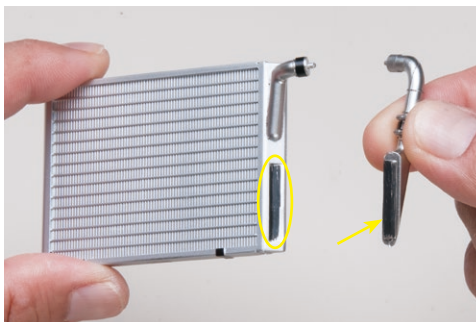


● ラジエーター(右・外)の赤丸で示した切り欠きに接着剤を塗り、ラジエーターホース(右下)を組み合わせて指で2~3分おさえる。



■切り欠きから接着剤がはみださないように注意する。

● ラジエーター(右・外)の黄丸で示した切り欠きに、ラジエーターホース(右上)の黄矢印で示した突起の形状を合わせて接着していくので確認する。



● ラジエーター(右・外)の黄丸で示した切り欠きの塗装をはがした部分に接着剤を塗り、ラジエーターホース(右上)を組み合わせて指で2~3分おさえる。



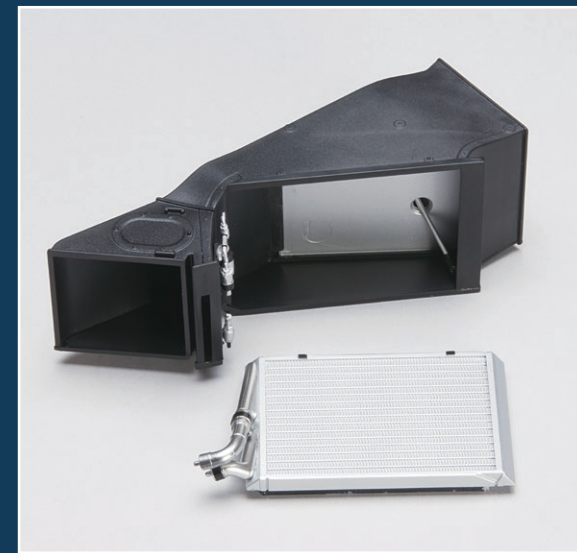
■2本のラジエーターホースがずれないようにおさえる。

● それぞれが完全に接着するまで1時間ほどおく。



今号の完成

サイドポンツーン(右上)にラジエーター(右・内)、サイドポンツーンシステム(右)、サイドポンツーン(右下)が取り付けられて、サイドポンツーン(右)ができた。ラジエーター(右・外)には2本のラジエーターホースが取り付けられた。



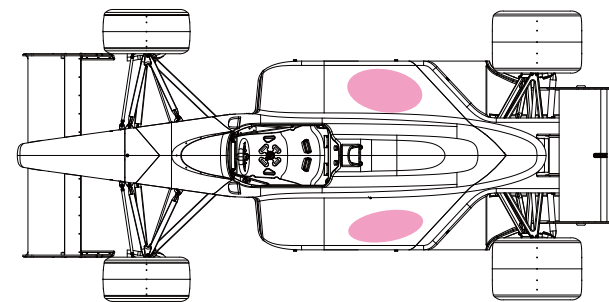
保管パーツ

③ インタークーラー(右上)と④ インタークーラー(右下)は次号でインタークーラーのコア部分に装着する。メッキ部分を傷つけないよう大切に保管しておこう。



Mission 20 ターボインレットダクトを組み立てる

今号は、後の号でターボチャージャーに接続するターボインレットダクトと右のインタークーラーを完成させる。まず左右のターボインレットダクトをつくり、それぞれにインレットダクトジョイントを装着する。次にインタークーラー（右）にインタークーラーユニットA（右）、インタークーラー（右上、右下）を取り付ける。



今号のパーツ



① ターボインレットダクト(左・外)



③ ターボインレットダクト(右・外)



② ターボインレットダクト(左・内)



④ ターボインレットダクト(右・内)



⑤ インレットダクトジョイント×2

※全てHIPS（スチロール樹脂）製



ターボインレットダクトは、空気をターボチャージャーへと導くパーツだ。MP4/4のターボインレットダクトは、1988年シーズン前半はサイドポンツーン上面に飛び出していたが、後半にはボディカウル内に収められた。本モデルのターボインレットダクトは、実車の立体的な形状を再現している。

◀ MP4/4の右側ターボインレットダクト周辺。

In Focus

今号で使用する道具

- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・瞬間接着剤
- ・カッター
- ・カッティングマット
- ・マスキングテープ

用意するもの

- ・インタークーラーユニットA(右) ※14号で組み立て
- ・インタークーラー(右) ※18号で組み立て
- ・インタークーラー(右上) ※19号で提供
- ・インタークーラー(右下) ※19号で提供

ポイント

ゲート跡の処理

●パーツの接着面となる部分にゲート跡(パーツをランナーから切り離すときにできる跡)がある場合は、カッターなどで滑らかにしてから接着作業をする。



※今号で組み立てるターボインレットダクトとインレットダクトジョイントとの接着面には、赤矢印で示した部分に、ゲート跡がある。

1 ターボインレットダクト(左・内、左・外)とインレットダクトジョイントの接着準備

《仮組み》

①ターボインレットダクト(左・外)と②ターボインレットダクト(左・内)の形状を合わせて写真のように組み合わせ、ターボインレットダクト(左)をつくる。



《仮組み》

ターボインレットダクト(左)の赤丸で示した円周部分に、③インレットダクトジョイントの黄丸部分をはめ込む。このとき、インレットダクトジョイントのゲート跡(青矢印)が、青丸で示した2つの突起と並ぶようにする。



2 ターボインレットダクト(左・内、左・外)とインレットダクトジョイントを接着する

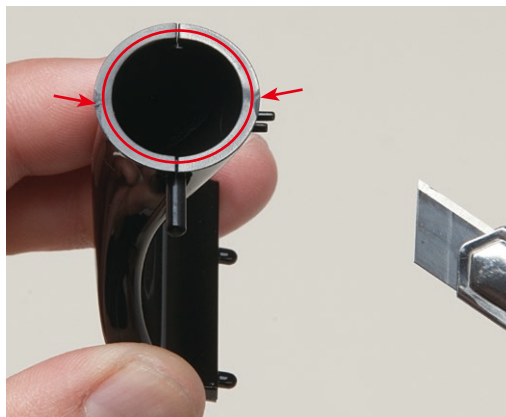
●ターボインレットダクト(左・内)の赤線で示した段差部分にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗る。仮組みしたようにターボインレットダクト(左・外)と組み合わせ、指で2~3分おさえる。



■接着剤がはみ出さないように注意する。



●ターボインレットダクト(左)の、赤丸で示した接着面のゲート跡(赤矢印)と塗装をカッターの刃のない部分で削って滑らかにする。



●滑らかにしたターボインレットダクト(左)の面に、プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗る。仮組みしたようにインレットダクトジョイントを組み合わせて、指で2~3分おさえる。



■インレットダクトジョイントのゲート跡と2つの突起を並べてからおさえる。



●完全に接着するまで1時間ほどおく。左を示す(L)と書いたマスキングテープを貼っておくと右側と区別がつけやすい。



NEXT STEP >>>

3

ターボインレットダクト(右・内、右・外)とインレットダクトジョイントを接着する

●1~2と同様に、3ターボインレットダクト(右・外)と4ターボインレットダクト(右・内)、残りのインレットダクトジョイントを接着する。完全に接着するまで1時間ほどおく。右を示す(R)と書いたマスキングテープを貼っておくとよい。



Check



完成時イメージ▲

■ターボインレットダクトは、モデルの完成後もボディカウルを取り外して鑑賞できる。

4

インタークーラー(右)、インタークーラーユニットA(右)、インタークーラー(右上、右下)の接着準備

●14号で組み立てたインタークーラーユニットA(右)、18号で組み立てたインタークーラー(右)、19号で提供したインタークーラー(右上、右下)を用意する。

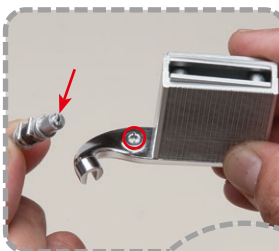


《仮組み》

赤線で囲んだインタークーラー(右)の突起の形状を目印にして、パーツの向きを確認し、その突起をインタークーラー(右下)の赤線で囲んだ長方形の溝と組み合わせる。



■インタークーラー(右)は溝の奥までしっかりと差し込む。



《仮組み》

インタークーラーユニットA(右)の赤矢印で示した溝がある部分をインタークーラー(右下)の赤丸で示した凹みに差し込む。



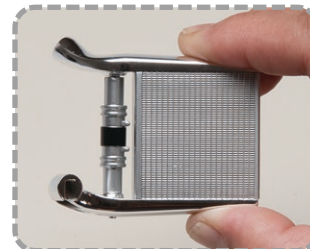
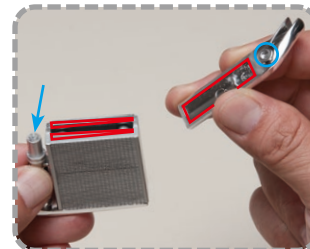
■インタークーラーユニットA(右)の溝を青矢印で示した突起に合わせるようにする。



5

《仮組み》

インタークーラー(右)の赤線で示した突起とインタークーラー(右上)の赤線で囲んだ長方形の溝、インタークーラーユニットA(右)の青矢印で示した突起とインタークーラー(右上)の青丸で示した凹みを組み合わせる。



5

インタークーラー(右上、右下)のメッキを削る

●インタークーラー(右下)の赤線で囲んだ向かい合う2面のメッキをカッターの刃のない部分で削る。削りづらい場合には、ホビー用のダイヤモンドヤスリなどを使用するとよい。



● インタークーラー（右下）の、U字型をした溝の内側のメッキを先端から3ミリ幅程度削る。



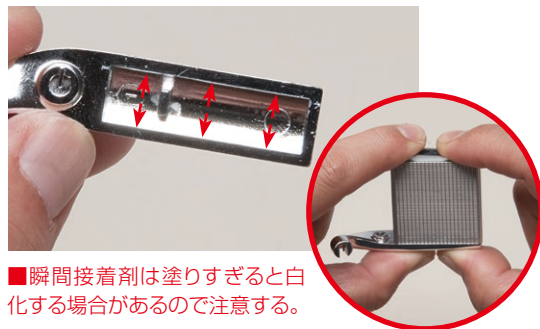
● インタークーラー（右上）も同様に、長方形の溝の赤線で示した2面と、赤丸で示したU字型の溝の先端から3ミリ幅程度のメッキを削る。



6

インタークーラー（右）、インタークーラーユニットA（右）、インタークーラー（右上、右下）を接着する

● インタークーラー（右下）のメッキを削った面の赤矢印で示した部分に、瞬間接着剤を少量ずつ塗る。仮組みしたようにインタークーラー（右）と組み合わせて、完全に接着するまで1分ほど指でおさえる。



■ 瞬間接着剤は塗りすぎると白化する場合がありますので注意する。

● インタークーラー（右下）の赤丸で示した凹みに、瞬間接着剤を少量塗る。仮組みしたようにインタークーラーユニットA（右）を組み合わせて、完全に接着するまで1分ほど指でおさえる。



■ インタークーラーユニットA（右）は凹みにしっかりと差し込んで接着する。

● インタークーラー（右上）のメッキを削った面の赤矢印で示した部分に、瞬間接着剤を少量ずつ塗る。仮組みしたようにインタークーラー（右）、インタークーラーユニットA（右）と組み合わせて、完全に接着するまで1分ほど指でおさえる。



■ 青丸で示した丸い凹みには接着剤を塗らない。

● インタークーラー（右）が組み立てられた。



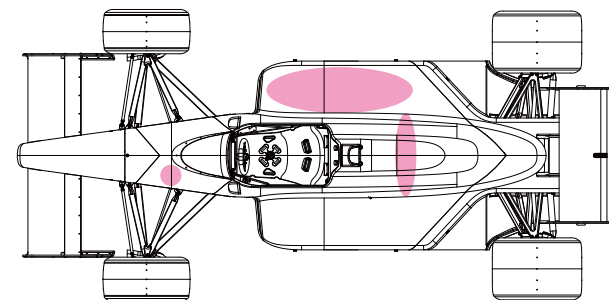
今号の完成

ターボインレットダクト（内、外）とインレットダクトジョイントが接着されて、ターボインレットダクト（左、右）が組み立てられた。さらにインタークーラー（右、右上、右下）とインタークーラーユニットA（右）の組み立てによって、インタークーラー（右）が完成した。

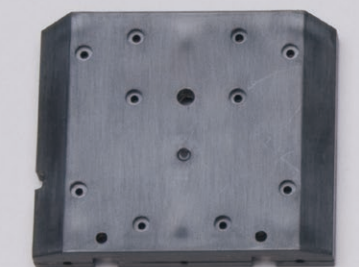


Mission 21 フロントサスペンションを組み立てる①

今号は、モノコックの後部に取り付けるモノコックインナープレートと、車体左側のフロントサスペンションを組み立てる。さらに、サイドポンツーン(右)にラジエター(右・外)とインタークーラー(右)を装着して、後の号でモノコックに取り付ける準備をする。



今号のパーツ



① モノコックインナープレート

② サスペンションサポート(左前)



③ ショックスプリング(前) メタル製



⑤ サスペンションジョイント(左前)



④ ショックアブソーバー(左前) HIPS + メタル製



⑥ サスペンションリンケージ



⑦ ビスF (3.0 × 35C-M BK) × 2



⑧ ビスG (2.0 × 6P-TP BK) × 2



⑨ ビスH (2.0 × 12P-M BK) × 3



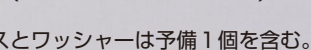
⑩ ビスJ (1.4 × 6P-M BK) × 14



⑪ ビスL (1.4 × 8P-M SiL) × 2



⑫ ワッシャー A (1.5 × 3.0 × 0.3 BK) × 3



※ビスとワッシャーは予備1個を含む。

※①②⑤⑥はHIPS (スチロール樹脂)製

今号で使用する道具

- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・瞬間接着剤
- ・プラスドライバー(00番)
※2号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・カッター
- ・カッティングマット
- ・マスキングテープ

用意するもの

- ・サイドポンツーン(右) ※19号で組み立て
- ・ラジエター(右・外) ※19号で組み立て
- ・インタークーラー(右) ※20号で組み立て

ポイント

事前にビスを分ける

●今号のように、種類の違う小さなビスやワッシャーが多数提供される場合は、事前にそれぞれを保管用のビニール袋に分けておくと、見分けやすく紛失も防げる。



フロントサスペンションは、マシンの走行性能に影響を与える重要なパーツだ。MP4/4のフロントサスペンションはコイルスプリングとショックアブソーバー(ダンパー)を中心に構成されている。本モデルは、ショックアブソーバーのロッド部やショックスプリングをメタル製とすることで、実車の質感を追求している。

◀MP4/4の左フロントサスペンション周辺。

In Focus

1 モノコックインナープレートの 接着とビス留めの準備

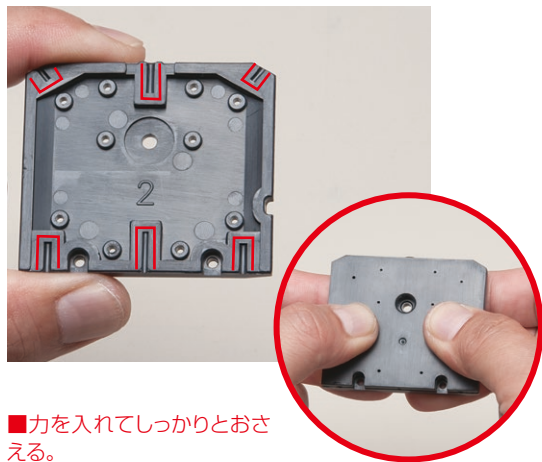
● ①モノコックインナープレートは赤色の点線部分でパーツを前後に分割する。



■赤丸で示した部分にある数字は、作業手順とは関係ない。

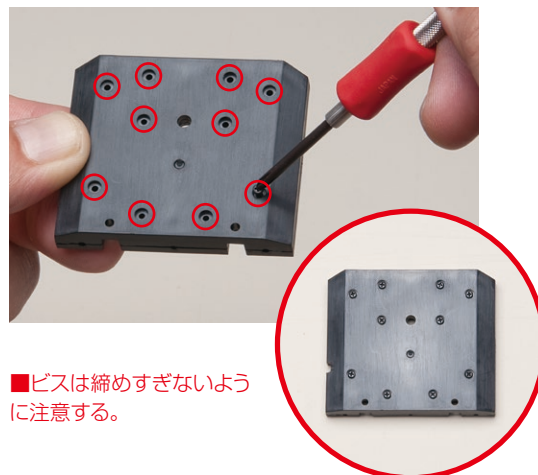
2 分割したモノコックインナープレート (前、後)を接着してビス留めする

●モノコックインナープレート(後)の赤線で示した6箇所に、プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、再びモノコックインナープレート(前)と組み合わせて、指で2~3分おさえる。



■力を入れてしっかりとおさえる。

●モノコックインナープレートの赤丸で示した10箇所の穴に⑩ビスJを差し、プラスドライバー(00番)で少しずつ順番に締める。



■ビスは締めすぎないように注意する。

3 ショックアブソーバー(左前)に ショックスプリング(前)とサスペン ションサポート(左前)を取り付ける

● ④ショックアブソーバー(左前)と③ショックスプリング(前)を写真のように組み合わせる。



■ショックスプリング(前)はどちらから組み合わせてもよい。

●ショックアブソーバー(左前)の青丸で示したビス穴部分と、②サスペンションサポート(左前)の黄丸で示した部分を組み合わせる。赤丸で示した穴には次の工程でビスを締めるので確認しておく。



■赤矢印で示した突起の位置は気にしなくてもよい。

●前の工程で確認した穴に⑪ビスLを差し、プラスドライバー(00番)で締める。



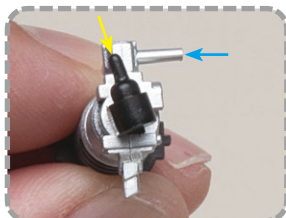
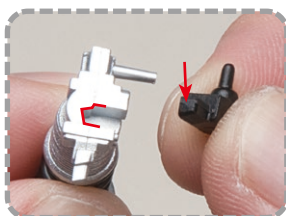
■締めすぎないように注意する。

NEXT STEP >>>

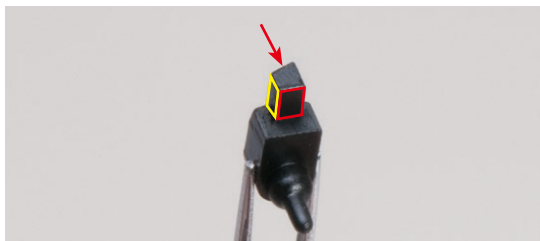
4 ショックアブソーバー (左前) とサスペンションジョイント (左前) の接着準備

《仮組み》

ショックアブソーバー(左前)下面の赤線で示した切り欠きの形状に合わせて、⑤サスペンションジョイント(左前)の赤矢印で示した突起を差し込む。
正しく組み合わせると2つの突起(黄矢印と青矢印)の向きは写真のようになる。



● サスペンションジョイント(左前)の黄線で囲んだ面と赤線で囲んだ面、その反対面(赤矢印)の3面の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。



● ショックアブソーバー (左前)の赤線で囲んだ切り欠きの内側部分の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。



■ 切り欠きの段差部分は削り取らないように注意する。

5 ショックアブソーバー (左前) とサスペンションジョイント (左前) を接着する

● ショックアブソーバー(左前)の塗装をはがした部分にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗る。仮組みしたようにサスペンションジョイント(左前)と組み合わせて指で2~3分おさえてから、完全に接着するまで1時間ほどおく。これでフロントサスペンション(左)ができてあがる。



■ 接着剤のはみ出しに注意する。

6 サイドポンツーン (右) とラジエター (右・外) の接着準備

● 19号で組み立てたサイドポンツーン(右)とラジエター(右・外)を用意する。



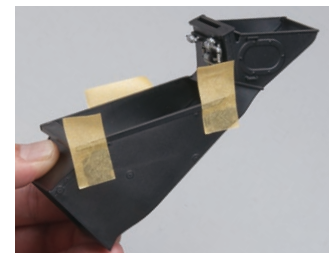
《仮組み》

サイドポンツーン(右)の赤線で示した枠に、ラジエター(右・外)の赤線で示した部分を組み合わせる。仮組みしたら、3センチ程度のマスキングテープを3本用意する。



7 サイドポンツーン (右) とラジエター (右・外) を接着する

● サイドポンツーン(右)に用意したマスキングテープを写真のように貼る。

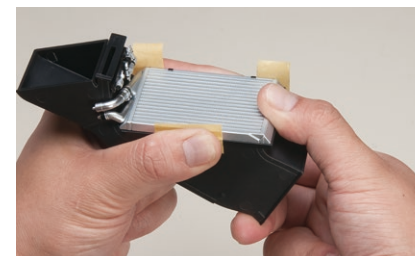


● ラジエター(右・外)の塗装をはがしてある3面(赤線で囲んだ面)にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗る。

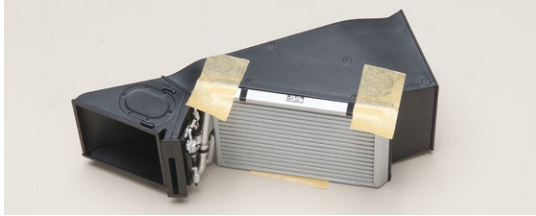


■ 黄矢印で示したプレート部分には接着剤が付かないように注意する。

● サイドポンツーン(右)とラジエター(右・外)を仮組みしたように組み合わせ、指で2~3分おさえる。



- 貼ってあるマスキングテープで写真のように固定する。1時間ほどおき、完全に接着したらマスキングテープをはがす。



- ラジエター(右・外)にスミ入れしている場合は、マスキングテープがスミ入れ部分にかからないよう注意する。

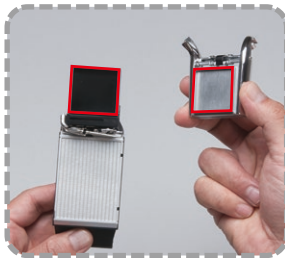
8 サイドポンツーン(右)とインタークーラー(右)の接着準備

- 20号で組み立てたインタークーラー(右)を用意する。



《仮組み》

サイドポンツーン(右)の赤線で示した枠に、インタークーラー(右)の赤線で示した部分を組み合わせる。



9 サイドポンツーン(右)とインタークーラー(右)を接着する

- インタークーラー(右)の塗装をはがしてある2面の赤点で示した部分に、瞬間接着剤を少量塗る。

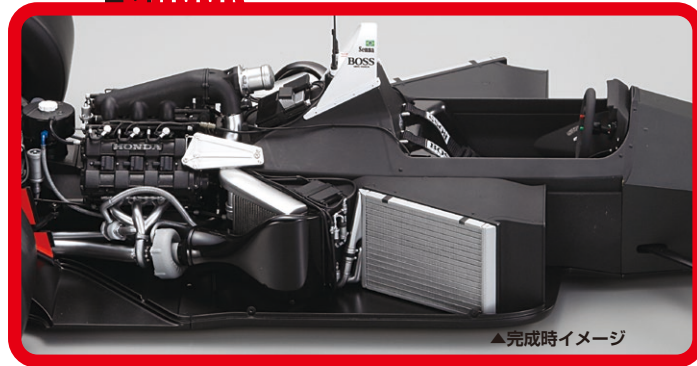


- 瞬間接着剤は塗りすぎると白化する場合があるので注意する。

- サイドポンツーン(右)とインタークーラー(右)を仮組みしたように組み合わせ、完全に接着するまで1分ほど指でおさえる。



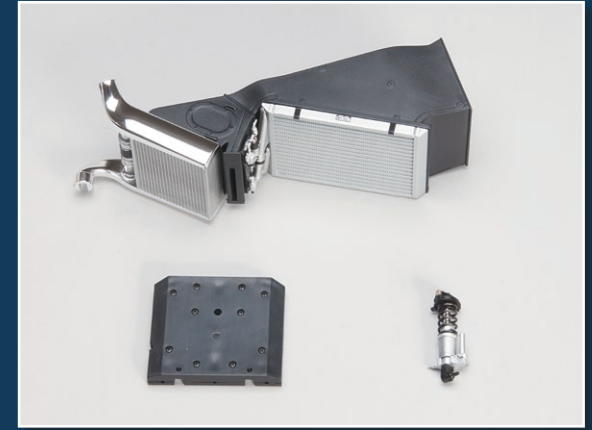
Check



- 今号でサイドポンツーンの組み立ては一区切りとなるので、それぞれのパーツがしっかりと接着されていることを再確認しておこう。

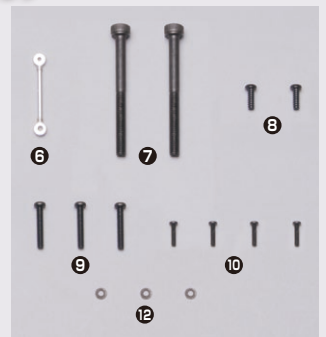
今号の完成

モノコックインナープレートとフロントサスペンション(左)が組み立てられた。さらにラジエター(右・外)とインタークーラー(右)が装着されて、サイドポンツーン(右)が完成に近づいた。



保管パーツ

今号で使用しなかった⑥サスペンションリンケージ、⑦ビスFと⑧ビスG、⑨ビスHと⑩ビスJの残り、⑫ワッシャーAは後の号で使用するまで大切に保管しておこう。サスペンションリンケージは、フロントサスペンション(左)と同じ袋に入れ、「フロント(左)」と車体への取り付け位置を明記しておくとい。

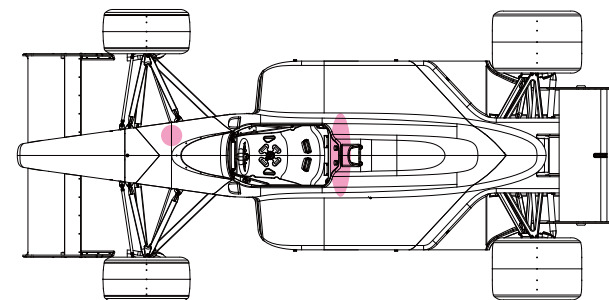


保管例



Mission 22 フロントサスペンションを組み立てる②

今号は前号と同様の作業をして、まず車体右側のフロントサスペンションを組み立てる。次にモノコックにモノコックパーテーション(C)を取り付けて、保管してあるモノコックパーテーション(B)や前号で組み立てたモノコックインナープレートなどを後の号でモノコックに取り付けるための準備をする。



今号のパーツ



① モノコックパーテーション(C)



⑦ プラスドライバー (0番)

② サスペンションサポート(右前)



③ ショックスプリング(前) メタル製



⑤ サスペンションジョイント(右前)



④ ショックアブソーバー(右前) HIPS + メタル製



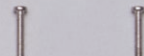
⑥ サスペンションリンケージ



⑧ ビスJ (1.4 × 6P-M BK) × 2



⑨ ビスL (1.4 × 8P-M SiL) × 2



※ビスは予備1本を含む。

※①②⑤⑥はHIPS (スチロール樹脂)製

今号で使用する道具

- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・プラスドライバー(00番)
※2号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・カッター ・カッティングマット

用意するもの

- ・モノコック ※18号で組み立て

ポイント

今号提供のドライバーについて

●今号で提供するプラスドライバー(0番)は、必要に応じて2号で提供したプラスドライバー(00番)とハンドルを差し替えて使用する。この(0番)のドライバーは、モノコック後部の赤丸で示した部分などをビス留めする際、パーツを傷つけないように市販のものより軸(赤矢印)が細くつくられている。



※プラスドライバー(0番)は後の号で使用する。

本モデルのショックアブソーバーやショックスプリングは、実車の形状をリアルに再現している。また後の号で、サスペンションリンケージはスタビライザーに、サスペンションジョイントはプルロッドに接続されるなど、サスペンション全体の構造も実車に近づけている。

※本モデルのサスペンションは可動しない。

◀MP4/4の右側のフロントサスペンション。

In Focus



1 ショックアブソーバー (右前) に ショックスプリング (前) とサスペンションサポート (右前) を取り付け

● ④ ショックアブソーバー (右前) と ③ ショックスプリング (前) を写真のように組み合わせる。



■ ショックスプリング (前) はどちらから組み合わせてもよい。

● ショックアブソーバー (右前) の青丸で示したビス穴部分と、② サスペンションサポート (右前) の黄丸で示した部分を組み合わせる。赤丸で示した穴には次の工程でビスを締めるので確認しておく。



■ 赤矢印で示した突起の位置は、後の号で調整する。

● 前の工程で確認した穴に ⑨ ビスを差し、プラスチックライバー (00番) で締める。

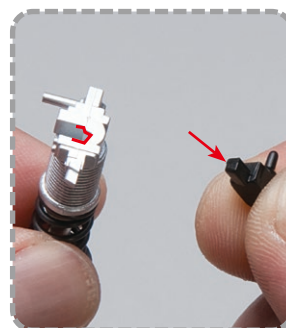


■ 締めすぎないように注意する。

2 ショックアブソーバー (右前) とサスペンションジョイント (右前) の接着準備

《仮組み》

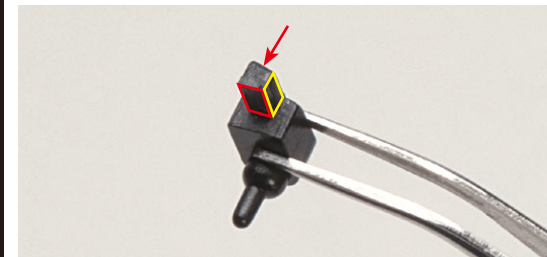
ショックアブソーバー (右前) 下面の赤線で示した切り欠きの形状に合わせて、⑤ サスペンションジョイント (右前) の赤矢印で示した突起を差し込む。



正しく組み合わせると2つの突起 (黄矢印と青矢印) の向きは写真のようになる。



● サスペンションジョイント (右前) の黄線で囲んだ面と赤線で囲んだ面、その反対面 (赤矢印) の3面の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。



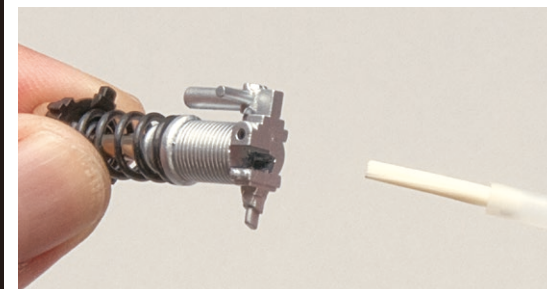
● ショックアブソーバー (右前) の赤線で囲んだ切り欠きの内側部分の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。



■ 切り欠きの段差部分は削り取らないように注意する。

3 ショックアブソーバー (右前) とサスペンションジョイント (右前) を接着する

● ショックアブソーバー (右前) の塗装をはがした部分にプラモデル (スチロール樹脂) 用接着剤を塗る。



■ 接着剤のはみ出しに注意する。

NEXT STEP >>>

- 仮組みしたようにショックアブソーバー（右前）とサスペンションジョイント（右前）を組み合わせて指で2～3分おさえる。



- 完全に接着するまで1時間ほどおく。これでフロントサスペンション（右）ができあがった。



4 モノコックとモノコックパーテーション(C)の接着準備

- 18号で組み立てたモノコックを用意する。



《仮組み》

- ① モノコックパーテーション(C)は、黄丸で示した突き出した部分を車体後方に向け、モノコックの内側と形状を合わせて、赤線で示した仕切りのあいだに差し込む。



5 モノコックとモノコックパーテーション(C)を接着する

- モノコック内側の赤線で囲んだ部分に接着剤を塗る。



- しっかりと接着させるために接着剤は多めに塗る。

- 仮組みしたようにモノコックとモノコックパーテーション(C)を組み合わせて、指でしっかりと2～3分おさえる。



- 完全に接着するまで1時間ほどおく。



Check



- モノコックパーテーション(C)は、モノコック内部のフレームとなってモノコックの強度を上げるパーツだ。モノコックパーテーション(C)とモノコックがしっかりと接着されていることを確認しておこう。

今号の完成

フロントサスペンション(右)が組み立てられ、モノコックにモノコックパーテーション(C)が取り付けられた。



保管パーツ

今号で使用しなかった
⑥ サスペンションリンケージと **⑦** ビスJは、大切に保管しておこう。サスペンションリンケージはフロントサスペンション(右)と一緒に袋に入れ、「フロント(右)」と車体への取り付け位置を明記しておくとうい。
⑦ プラスドライバー (0番)は後の号の組み立てで使用する。



保管例



ディテールアップ

フロントサスペンションとサスペンションリンケージのスミ入れ

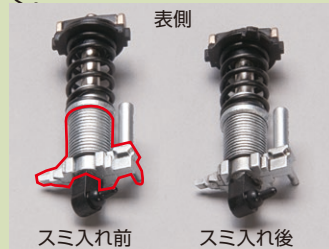
前号と今号で組み立てたフロントサスペンション(左、右)と、提供したサスペンションリンケージ×2は、スミ入れすることでディテールアップできる。このスミ入れは、今号の組み立て作業後に行うとよい。

※スミ入れはディテールアップのための任意の作業だ。詳しいスミ入れ工程については、9号の組み立てガイドを参考にしよう。

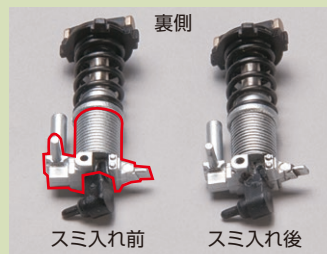
- 1** 21号で組み立てたフロントサスペンション(左)と、提供したサスペンションリンケージを用意する。



- 2** フロントサスペンション(左)は、赤線で囲んだネジ状の部分とパーツ下部にスミ入れする。ネジ状部分は溝にスミ入れ塗料を染み込ませるようにするとよい。パーツ下部は突起の根もとや段差部分にスミ入れしてから、塗料を粗く拭き取って黒っぽく汚すと実車のイメージに近づく。



スミ入れ前 スミ入れ後

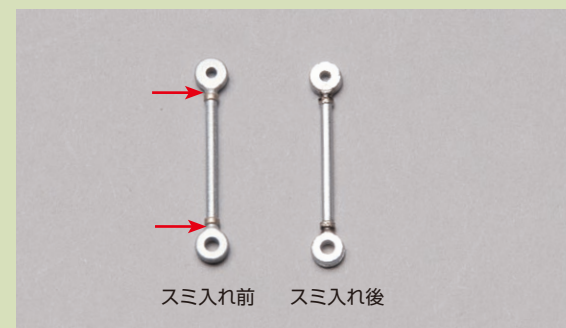


スミ入れ前 スミ入れ後

- 3** 2と同様の作業をして、フロントサスペンション(右)にスミ入れする。



- 4** サスペンションリンケージ×2は上下の輪の根もと(赤矢印)にスミ入れする。



スミ入れ前 スミ入れ後

- 5** スミ入れを終えたら、再び左右の区別をして保管しよう。
 ※サスペンションリンケージに左右の区別はない。

